### subarray()

指定した配列の部分配列を返します。

#### 構文

subarray(ARRAY\_EXPR, INT\_START, [INT\_END])

**ARRAY\_EXPR**

配列を返す式

**INT\_START**

配列から切り出す区間の開始インデックス番号。番号は 0 から始まります。

**INT\_END**

配列から切り出す区間の終了インデックス番号。終了インデックス番号の配列要素は部分配列に含まれません。

#### 説明

配列要素のインデックス番号は 0 から始まります。5つの要素を持つ配列の場合、インデックス番号は順に 0, 1, 2, 3, 4 となります。INT\_START および INT\_END には負の値を指定することもできます。5つの要素を持つ配列で負のインデックス番号を指定する場合、順に -5, -4, -3, -2, -1 となります。

#### 使用例

一般的な使用例

json "{}" | eval parent=array(1, 2, 3, 4, 5) | eval child=subarray(parent, 2) | # 返り値: parent: [1, 2, 3, 4, 5] child: [3, 4, 5]

json "{}" | eval arr=subarray(array(1, 2, 3, 4, 5), 2, 4) | # 返り値: arr: [3, 4]

json "{}" | eval arr=subarray(array(1, 2, 3, 4, 5), 1, -1) | # 返り値: arr: [2, 3, 4]

有効範囲外の INT\_START または INT\_END を指定した例

json "{}" | eval arr=subarray(array(1, 2, 3, 4, 5), 5) | # 返り値: null

json "{}" | eval arr=subarray(array(1, 2, 3, 4, 5), 0, 5) | # 返り値: arr: [1, 2, 3, 4, 5]